

「お薬を飲まれていますか？」

薬剤師 端山 智

『お薬を飲んだり、使ったりしていますか？』
病院にかかったときに医師に、処方せんを出した
ときに薬剤師や医療事務員に、また入院などした
ときに看護師や病院の薬剤師に聞かれると思い
ます。

今現在、どのような病気で治療を受けているの
か、治療をする上で注意すべき状況(飲み合わせ
が良くない薬がないか、効果が重複している薬が
ないか、継続する必要がある薬か、検査や手術に
影響はないか等々)を確認させていただくために
伺っています。

是非とも自分の飲んでる薬の効能や注意す
べき点を確認してみてください。

薬はたくさん飲めばより良く効くというものでは
ありません。また、人により必要な量も異なります。
同じ薬を飲んでいても違う目的で使う場合も多々
あります。薬を適正に管理するためにも「おくすり
手帳」等を活用して、いつでも服用・使用している
薬を伝えられるようにしておきましょう。複数の病
院にかかる場合、実は同じ成分の薬が出されてい
て多く飲みすぎてしまっていたということを防ぐこ
とができます。「おくすり手帳」を持っていられ
ない方は、院外処方せんで調剤する薬局にお問
い合わせ下さい。

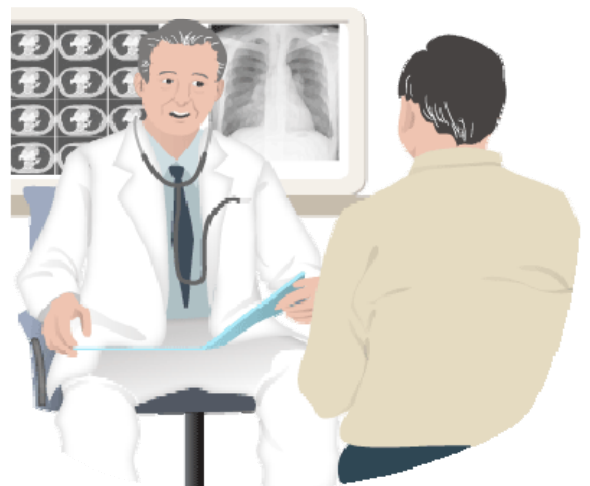


2013年9月現在で、飲み薬のうち日本国内の
医療機関で医師が処方できる薬は錠剤だけで66
68種類あります(同一成分で名前だけ違う場合も
含む)。またその中で一番安い薬は1錠2.5円
ですが、一番高い薬は1錠1万2935.9円です。
薬代は安いものではありません。



経済的負担を減らすためにも薬を整理点検
し、医師に伝えることはとても重要です。

特に同じような症状で複数の病院にかかっ
ている場合は、同じような薬が出されがちです
ので“他のお医者さんにかかっていることを知
られると先生に申し訳ない”などと思わずに必
ず伝えて下さい。



薬の管理は厳重に

薬の管理はどのようにされていますか。他の人の薬を飲んだり、不注意で事故を起こしたりしていませんか。

ご家族や友人の方がたとえ同じような症状を訴えていたとしても同じ薬が適切とは限りません。効果がある場合もありますが、そこに潜む病気はまったく違うこともあります。そのまま服用してしまうと、病院にかかるタイミングが遅れてしまい、かえって時間と費用がかかってしまう場合があります。病院で出された薬は、その人の症状を診て医師が選択したものですので他の人に譲渡してはいけません。

また、薬が偶発的に他の人の口に入ってしまう事故があります。特に小さなお子さんが口に入れてしまうケースは依然としてなくなりません。小さなお子さんの場合、大きな被害につながる場合がありますので、周りの大人が十分に注意し、手の届かないところで保管してください。その注意不足が胃の洗浄や内視鏡処置、点滴注射や入院など後々に大変な事態となることもあります。

小さなお子さんだけでなく、成人や年配の方も注意が必要です。よくあるのが、包装のまま薬を飲んでしまい、消化管が傷ついたり切れたりする事故です。薄暗い中で手渡されてそのまま飲んだことや1個だけ取り出すのを忘れたなどが主な理由です。このような事故を少しでも防ぐためにも周囲の方も薬を服用している方が近くにいる場合、気にかけるようにしましょう。



薬を安全かつ効果的に使うために

効果的に薬を使用するためには、まず“自分の飲んでいる薬をよく知る”ことが大切です。

わからないことや気になる点は医師や薬剤師にお尋ね下さい。



◆◆院内トピックス◆◆

放射線科で CT320列装置を導入しました。

(わずか0.35秒で心臓まで撮影可能で、被曝線量が低減できる世界最新の装置です。)